

教科(科目)	芸術(音楽Ⅰ)	単位数	2単位	年次(系列)	1年次
使用教科書	教育芸術社『高校生の音楽1』				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	①地域と連携する活動をとおして、地域に愛着を持ち、将来にわたり地域社会に主体的に貢献しようとする姿勢を育成します。 ②防災減災学習や地域理解学習をとおして、地域の課題を自分事として捉え、解決しようとする態度を育成します。 ③豊かな心を持ち、思いやりをもって自他を尊重し、国際化に対応したコミュニケーション能力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	①基本的な生活習慣を確立させる生徒指導や人権教育、同和教育の推進をとおして、規範意識・社会性の涵養、いじめを許さない態度の育成をするための教育活動を展開します。 ②3年間の系統的で継続的な「白嶺HS J」(ホップ・ステップ・ジャンプ)プランによるキャリア教育や防災減災学習により、学力向上、進路実現を目指すための指導や取り組みを推進します。 ③職業理解、地域理解を深め、地域課題を解決しようとする態度を育成するため、地元の産業界、関係機関等との連携・協働を推進し、地域の復興や活性化に向けた教育活動に取り組みます。

2 学習目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽の幅広い活動を通して、生徒が個性を生かしながら思いや意図をもって、表現したり味わって鑑賞したりする力を育成し、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる。</li> </ul>
---

3 指導の重点

生涯にわたって主体的に音楽を愛好していこうとする心情の育成を目指します。そのために、生徒一人一人が個性を生かして音楽の幅広い活動を行い、音楽のよさや美しさなどを感じ取って、そこに価値を見いだすことのできる感性を高めていき、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を深化させていくことを目指します。 特に、生徒が日頃から親しんでいる音楽のみを経験するのではなく、我が国及び諸外国の様々な音楽を授業の中で幅広く学習することで、音楽の文化的・歴史的背景、作曲家及び演奏者による表現の特徴、音楽の伝承方法、表現方法、様式などの観点から音楽の多様性を理解し、音楽的視野を広げて、音楽文化についての理解が深めることを目指します。
--

4 評価の観点の趣旨

a 知識・技能	b 思考・判断・表現	c 主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>曲想と音楽の構造や、文化的・歴史的背景などとの関わり、及び音楽の多様性について理解しようとしている。</li> <li>創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技術を身に付け、歌唱、器楽、創作で表そうとしている。</li> </ul>	自己のイメージを、もって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聞くことができる。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、音楽を愛好する心情を育むとともに、表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

5 評価方法

評価は次の観点から行います。			
評価方法	a 知識・技能	b 思考・判断・表現	c 主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> <li>実技試験</li> <li>提出物(プリント等)</li> </ul> などから評価します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>実技試験</li> <li>提出物(プリント等)</li> <li>授業観察</li> </ul> などから評価します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>提出物(プリント等)</li> <li>授業中の取り組みの観察</li> </ul> などから評価します。
内容のまとまりごとに、各観点「A:十分満足できる」「B:おおむね満足できる」「C:努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は、授業で説明します			

## 6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価の観点と評価方法
前期	歌唱	9 歌唱	校歌 ポピュラー ミュージック	バランスのよい姿勢、呼吸の仕方、声の響かせ方を理解し、曲のイメージをもち、曲想と歌詞との関わりや旋律の特徴、言葉の抑揚を理解して、表現を創意工夫して歌う 歌詞の内容を理解し、ディナーミクなどに注意して曲にふさわしい表現を創意工夫して歌う	35	実技テスト ノート ミニテスト 授業への取り組み a b c
		9 器楽				
	鑑賞	8 鑑賞	合奏 リズムアン サンブル	楽器を使い、アンサンブルをする。表現の工夫をしたり記譜法や基礎知識を習得する。 手拍子やボディーパーカッション、唱歌(しょうが)、打楽器などを用いて、音色を工夫したり、リズムパターンを即興で変化させたりして、リズム合奏の表現を創意工夫して演奏する		
		9 創作	表現とは音楽って何だろう	自分にとってイメージの湧きやすい、詩、短歌、俳句を選び、音楽のもとになる「サウンドピース」や「メロディーの骨格」をつくり、それを表現したいイメージに合わせて音楽をつくる 身の回りのさまざまな音を聴き、「音楽とは何か」を考えさまざまな音楽のあり方に気付く		
			アジアの音楽	ガムランの楽器や1周期16拍の4周期分からなる骨格旋律などの特徴を理解して鑑賞し、アジアの音楽が育まれた地域の風土や気候との関わりについて関心をもつ		
後期	歌唱	9 歌唱	イタリア歌曲 ドイツ歌曲	イタリア語の発音の特徴や、リズムや旋律との関わりを理解し、歌詞の内容にふさわしい表現を創意工夫して歌う ドイツ語の発音やその強弱によるリズムと旋律との関わりを理解するとともに、同じ詩を用いたそれぞれの曲にふさわしい表現で歌う	35	実技テスト ノート ミニテスト 授業への取り組み a b c
		9 器楽				
	鑑賞	9 鑑賞	箏曲	縦譜の読み方や箏の構造、奏法を学び、箏曲の唱歌を歌うことで旋律の動きや余韻の変化、間などを理解し、箏の特徴を生かして演奏する		
		8 創作	ギター	コード奏法を習得し、コードを用いた弾き歌い。コードネームの理解。		
	鑑賞		民謡と民族芸能	日本の民謡や民俗芸能の分類を知り、民謡で用いられる音階やリズム様式を理解したうえで、沖縄・奄美群島のさまざまな音楽を鑑賞し、そこで用いられる楽器、衣装、踊りなどの特徴を理解する		
			交響詩 交響曲	作品に影響を与えた詩を読み、情景を思い浮かべながら曲を鑑賞し、登場する人や物、物語のシーンがどのように音楽で表現されているかについて、考察する 音楽に込められた作曲者の思いについて話し合い、考えを深める		
			オペラ	オペラのあらすじと登場人物の心情、当時の社会背景を理解して、これらがどのようにオペラで描かれているかについて理解を深め、創意工夫して歌う  作品のテーマとなっているアメリカの社会問題を理解し、		
			ミュージカル	代表的なナンバーを創意工夫して演奏し、ミュージカルの登場人物の心情を感じ取る		
			変奏	変奏や編曲について理解するとともに、《きらきら星》の旋律を創意工夫して器楽アンサンブルに編曲し、創作や器楽合奏に親しむ		

計70時間(50分授業)

## 7 課題・提出物等

ノートやプリント等の提出や、実技発表など行います。

## 8 担当者からの一言

有史以前より音楽は人類とともに歩んできました。人々の暮らしに音楽があり、時には癒されたり、時にはモチベーションをあげたり、時には身の安全を守ったりと、様々な特徴をもつ音楽が存在しています。音楽の多様性を学び、感受し体験することは、豊かな人生を送ることにつながります。一緒に音楽の見聞を広めていきましょう。

※ 単元は楽器準備などの事情により変更することもあります。(担当：佐藤 香奈子)